



事務所 伊那市西町5016-2 TEL(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 TEL(78)1121
 会長 平出吉範 幹事 山崎秀亮 会報委員長 本島清隆 第3048回 例会2024.11.23 No.1678



2024-25年度 RI テーマ

THE MAGIC OF
ROTARY

「中尾歌舞伎秋季公演」 伊那ロータリークラブ地区補助金事業

11月23日(土)好天に恵まれた中、伊那ロータリークラブの地区補助金事業として「中尾歌舞伎秋季公演」が、紅葉が美しい自然環境に囲まれた、伊那市長谷伝統文化等保存伝習施設「中尾座」にて、開催されました。

中尾歌舞伎は、伊那市の無形民俗文化財に指定されています。市内外100名ほどの方々に笑いあり、涙ありの名演を鑑賞していただきました。

【主催者挨拶 平出吉範会長】

今回、伊那RCでは第2600地区の補助金事業として中尾歌舞伎の秋季公演を共催させて頂きました。今回の広報、照明、駐車場係、受付、事務、その他雑用等はロータリークラブの会員が協力して行っております。



農村歌舞伎は、江戸の中期から末期にかけて日本全国に広がっていったものです。もともと上方、京、江戸にあった歌舞伎小屋を観た者や地方にやってきた旅芸人の芝居を真似て、各地の農民の娯楽として行われるようになったようです。1970年にまとめられた調査では全国で廃絶したものも含めて1,777の農村歌舞伎舞台があったと言うことですから大変な数です。中尾歌舞伎も明和4年(1767年)に誕生したといわれ、戦争中など40年ほどの中断を挟み、昭和61年に復活しております。現存する農村歌舞伎としては上伊那唯一で250年以上の歴史をもつ

ています。平成27年に出された文化庁の「全国地芝居(地歌舞伎)調査報告書」によれば、長野県内では東御市の東町歌舞伎、平谷歌舞伎、下條歌舞伎、大鹿歌舞伎、上松歌舞伎、南木曾町の田立歌舞伎に中尾歌舞伎を加えて7つの農村歌舞伎が残っています。上田真田歌舞伎などは消滅しています。また農村歌舞伎舞台といわれる施設は上伊那だけでも野口八幡神社舞台、飯島町の本郷神社舞台、辰野町の神明神社舞台、箕輪町の三日町旧公民館、宮田村の元宮神社舞台とありますが、現在でも農村歌舞伎の担い手が残っているのはここ中尾座の中尾歌舞伎だけです。またそれぞれの農村歌舞伎は江戸期、明治期、戦中、戦後と数回の衰退を乗り越え現在でも定期的に公演を行っているものは全国で32ほどしかなく、多くは後継者の問題に直面しているのが現状です。

今回公演予約をして頂いた皆さまに簡単なアンケートを付けさせて頂きましたが、中尾歌舞伎の運営にぜひ参加したいと答えて頂いた方が2名、時間の許す範囲で協力できると答えて頂いた方が9名と、思った以上に多くの方々がいらっしゃる事に嬉しく思うところです。もともと農民の娯楽として発生し、時の政府(幕府)の弾圧を避けるために神に奉納する建前で舞台を神社内に設け、続けてきた祖先の知恵とここにお集まりの皆さまのお力をお借りして、地域に残る伝統を守っていかれたらと感じています。

本日は「義経千本桜 鮎屋の段」をお楽しみ下さい。

